

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
まちづくり	1	都市計画について	共通	「住民が増えているが住宅地が足りない」という話がありました。けれども、印西市は市街化調整区域が多いです。これは県の権限かもしれませんが、市街化調整区域の見直しや線引きをすることで、宅地というのはもっと増やせるのではないかと思います。それから、データセンターなども中心部に建てるのではなくて、もう少し離れた広い土地に設けるという選択肢もあるのではないかと思います。	現在、成田空港の機能強化により、発着回数が倍増し、雇用も数万人単位で増える見通しです。住む人も増えている中で、各自治体でどれだけ人を受け入れ、どのような産業を誘致するか、この北総地域・印旛郡市全体のまちの在り方を再考しようという話をしています。 印西市に対しても「産業」「住宅」の両面での期待が高く、都市計画の線引きの見直しを含めて、市街化区域の拡大についても検討していきたいと考えています。市街化調整区域を市街化区域にするには県の権限が必要になるため、しっかりと県と連携して必要な対応を取っていきたいと思っています。 また、既存の宅地にも空きが出てくるため、新しい住民が入ってこられるような支援も並行して進めていく必要があります。データセンターについてはご指摘のとおりで、駅前などの中心地に造ることに対して私も疑問を持っています。儲かるから駅前に建つ傾向があるものの、それで良いのかという問いかけを持っています。現在、都市計画や地区計画、その他の条例の見直しを進めており、今年度中にはルール改正に向けた動きを進めているところです。ただし、土地は個人の財産ですので、完全に市が規制するのは難しい面もあります。既に進行中の開発を止めるのは難しくとも、今後の新たな計画については規制できるよう、制度面の整備を進めていきます。	—	都市計画課
まちづくり	2	森林環境税について	共通	森林環境税についてお聞きしたいのですが、もともとこれは森林組合が国にお願いをして始まった制度です。私は印旛郡の代表として森林組合の理事を務めており、他の地区の理事たちとも「今ではもう山を顧みる人がいない。どうしたらいいだろうか」などと話し合っています。今後、税の活用を含めて、ぜひご支援をお願いいたします。	印西には林業としての産業はないものの、森はたくさんあります。私は「森を守るためには、活用することが必要」だと考えています。かつては森が資源として使われ、生活の基盤でしたが、今は負債のように扱われがちです。それをどうにかしたい。たとえば、草深の森のように市民団体が整備し、子どもたちが遊べるプレイパークにしている例もあります。また、別の地域では森の中で結婚式を行っている方もいます。整備された森の美しさは本当に素晴らしい。また、間伐材を薪ストーブで使ったり、竹チップを稲作の肥料にしたりと、利活用の可能性はまだあります。税金を単に「守るため」に使うのではなく、「活用して守る」形にしていきたいと思っています。ご提案いただいた協議会については持ち帰って検討させてください。既存団体の知見も活かしつつ、若い世代も参加できるような、新しい仕組みづくりが必要だと感じています。	—	農政課
まちづくり	3	クリーンセンターの利用について	共通	自宅の植木の剪定をしていて、そのくずを出そうと思ったところ、クリーンセンターが昨年末の火災の影響で利用できないと聞きました。「いつ頃修復されるのか」と尋ねたのですが、はっきりした回答はなく、2～3年後に新しい施設ができるまで使えないのでしょうか。	ご不便をおかけしますが、使うことができません。粗大ごみを分別するところが燃えてしまいましたが、原因はリチウムイオン電池でした。最近では電池が小型化していて、分別されないまま出す人が増えているんです。こちら側でそれをチェックするのは本当に難しいところです。現在は、粗大ごみについては全て民間に委託して処理してもらっている状況です。それを修復・復旧しようとする約10億円くらいかかるそうで、費用対効果を考えると、やはり今は民間に委託しつつ、3年後に新しいクリーンセンターができたタイミングで全ての持ち込みを再開するという方針で進めています。	—	クリーン推進課
まちづくり	4	ごみステーションのルールについて	共通	印西市は「クリーン印西宣言都市」とされていますが、実際にはごみステーションが乱雑に使われている場所が多く見られます。私は以前、市民課の方にお話しさせていただき、「転入時にきちんと説明をしてほしい」とお願いしました。災害ハザードやごみの分別方法など、本来は袋を配るだけではなく、その場でしっかりと説明するべきだと思います。とくにアパートなどでは説明が十分でないまま、結果的にごみ出しのルールが守られていないように感じます。関係各課の横連携で仕組みを作っていただきたいと思っています。	ごみの件はおっしゃるとおりで、実際にいろいろな地域からご意見をいただいています。最近では海外からの転入者も増えており、単身の方や集合住宅では出し方にばらつきが見られますので、対応を検討していきます。	—	市民課 クリーン推進課 防災課
インフラ・防災	5	上水道の未給水区域について	共通	印西市は県内54の自治体のうち、未給水区域を持っている6自治体の1つだと聞いています。私もその中に暮らしておりまして、生まれたときからずっと井戸水を使ってきました。 数年前の水質検査では有害物質は出ませんでしたが、やはり予想どおり「悪臭がある」と指摘されました。現在は「帰り水」や「浄水サービス」を利用してはいますが、水道の方に伺ったところ、昨年の秋から今年の1月まで、私たちの地域を含めた大規模なアンケート調査を実施されたと聞いています。ただ、現時点でその結果がまとまっているのかどうか、よく分かりません。 この件についての今後の対応や見通しを少しお聞かせいただければと思います。先ほどのお話でインフラ整備や予算の課題もよく分かりましたが、そのうえで、可能な対応があれば期待しています。	市には、水道の事業体が3つあります。県営水道、市営水道、それから本埴地区は栄町との共同水道事業です。たとえば大森地区は市営ですが、実は市の給水区域は全域ではなく、一部給水されていない地域があります。 そうした地域には水道を希望される方も多いため、現在アンケートを実施しているところです。全戸ではなく、地区ごとの実情に応じた形で進めています。ただ、この問題は費用対効果をどうしても考えなければなりません。 実際、導入しても利用率が3割程度と低い地域もあって、慎重な判断が求められるところです。とはいえ、水質に課題のある地域や農地が集中している場所など、二ズの高いエリアについては、新たに給水区域として整備していく方向で検討しています。 水道設備は一度整備すると50年、100年と使い続けることになるため、将来世代の負担も見据える必要があります。大切なのは安心・安全な水を提供すること。そのため、たとえば市街地から離れていて水質が悪い地域には、ウォーターサーバーの購入助成など別の支援も考えられると思っています。すでに浄水器の助成も一部で実施しています。 ただ、水道を担当する課と浄水器助成を担当する課が異なっていて、水道事業は企業会計で一般会計とは別の枠組みになっているのも課題です。ここに横串を通す仕組みを整えないと、支援の幅が限定されてしまいますので、庁内連携をしっかりと強化していきたいと考えています。	—	水道課
インフラ・防災	6	ライドシェアの研究について	共通	交通不便地域の課題について、市長からも言及がありましたが、やはり地域によってはまだ不便さが残っています。私は以前、「印西版のライドシェア」の導入をご提案させていただきました。本来、ライドシェアは「運転手不足」が背景にあると言われますが、それだけではなく、柔軟に運用できる交通手段として他市でも実践されつつあると聞いています。印西市でも同様の仕組みを検討していただければ、不便な地域の移動手段として改善に繋がるのではないかと思います。	交通についても同様で、ご指摘のとおり、市として取り組めることを考えていきたいです。ライドシェアについては規制が厳しい面はありますが、タクシーだけでは対応しきれない地域もあるので、柔軟な対応を模索していきたいと考えています。	—	交通政策課
インフラ・防災	7	避難所のサインについて	印旛	印西市には避難所が複数ありますが、「実際にどこにあるのか」が分かりづらいのが現状です。町を歩いても、避難所を示すサインなどがほとんど見当たらず、いざ災害時にどこへ避難すべきなのかわからないという不安があります。広域避難所なのか、地域限定なのかという点も含めて、防災の視点から視認性のあるサイン表示を市内各所に整備していただきたいと感じています。	防災については、現在体制の見直しを進めており、元自衛隊空挺団の隊長経験者に担当官として指揮を取っていただいています。今回いただいたようなご意見についても、対応できるよう取り組んでまいります。 800人ほどの職員だけで11万人の命を守るのは難しく、市民の皆さんと一緒にまちを守っていくことが大切です。その意味でも、「あそこが避難所だ」と自然に分かるような整備を進める必要があると考えておりますので、今回のご意見はしっかり受け止めました。	—	防災課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
教育・子育て	8	デジタル教育について	共通	デジタル教育についてです。これは非常に重要な分野であると認識しています。ただ、私自身、サッカーを通じて小中学生と関わる中で、以前と比べて「自分で考える力」がやや薄れてきていると感じる場面があります。もちろん個人差もありますが、全体的な印象としてそう感じています。また、新入社員や若手社員と接する中でも、似たような傾向を感じることもあります。 デジタル教育の推進は重要ですが、それと並行して「思考力や主体性」といった面の育成にも力を入れていただけると、よりバランスの取れた人づくりにつながるのではないかと考えております。	デジタル教育については、進め方をしっかり考えていかなければならないと感じています。たとえば、今の子どもたちは「海の課題を解決するプロダクトを考える」といったようなテーマに取り組んでいて、そういった活動を通して考える力が鍛えられているはずです。 ただ、ご指摘の文脈でいえば、最近はYouTubeのショート動画ばかり見ていたりと、極めて受け身なデジタルの使い方が目立ちます。能動的にデジタルを活用する視点が欠かせないと痛感しています。 それともう一つ、意外に大事なのが「森に入ること」です。たとえば森の中の幼稚園では、常に地形が変化する中で子ども自身が判断を求められ、自分たちで遊びを創り出す経験が積める、そういった自然の中での体験とデジタル教育の両立こそが、これからの本質的な教育に必要な視点だと思っています。 現在、市の教育大綱の見直しを進めているタイミングでもあり、教育長とも相談を重ねています。いただいたアドバイスも大変参考になります。 スポーツ、特にサッカーのような競技も、自ら考え、判断する力を育むうえでとても良いものだと思います。これからの時代を生きる子どもたちにとって、「自分で考え、動く力」が不可欠だとあらためて認識しました。	—	指導課
教育・子育て	9	図書館について	共通	印西市を一度出た子どもたちも「この地域がいい」とよく話しており、実際に戻ってきている子が結構います。 私は図書館を大切に思っているのですが、小倉台図書館を利用する中で、子どもの本がかなり古くなっていると感じました。そういった文化面にももう少し予算をかけていただけるとありがたいなと思っています。 先日、調布の図書館に行ったのですが、近くに映画の撮影所がある関係で、何十年も前の台本が保存され、郷土資料として一般に公開されていると聞きました。それを知って、印西市を見直したときに、「木下貝層」など、世界に誇れる地域資源があることを改めて思い出しました。 そういったものを市民や子どもたちが誇りに思えるように、図書館が中心となって郷土資料を集め、伝えていくことが大事ではないかと感じております。図書館を大切にいただければと思います。	本の購入費用については、これまで減らされてきた経緯がありますが、ここ数年で徐々に引き上げられてきています。私もその流れを継続し、さらに進めていきたいと考えています。 一方で、電子化が進む今だからこそ図書館には大きな意義があるとも思っています。図書館は「知の創造拠点」として、何かを生み出す場であるべきです。たとえば「こういうことを解決したい」と思ったときに、さまざまな情報を提供してくれる司書がいて、利用者を支えてくれるような、そんな存在であってほしいと思います。 また、図書館は地域を知る入口でもあります。博物館や資料センターは遠くてなかなか足が向かないという現実もあるので、図書館がもっと身近に地域のことを学べる場になれば願っています。そうした役割を担えるよう、今後も力を入れていきたいと思います。	—	生涯学習課
教育・子育て	10	公民館の移転について	大森	私は大森の木下駅の近くに住んでいるんですけども、駅前のにぎわい広場は以前は草や木が生い茂っていた場所で、今は広場として整備され、散歩する方も多くていい雰囲気になっています。ただ、この中央公民館ですが、去年の夏は冷房が全然効かなくて、最初は1〜2週間のつもりが、結果的に3か月間も使えなかったんですね。もう建物自体が古くなっているんで、この広場をただの広場としてではなく、公共施設の拠点として整備していただけるとありがたいです。できれば、建替えは今の公民館ではなくて、にぎわい広場を活用してもらいたいと思っています。	木下のにぎわい広場に公民館をつくることも可能性の一つと考えています。現在の公民館は借地で費用もかかっており、返却すべきだとも考えています。にぎわい広場は多くの人が集まるポテンシャルをもっていますので、民間の力も借りながらにぎわいのある施設として整備したいと考えています。 また、担当していく職員を民間スクールに派遣し、広場活用をテーマに研究してもらう予定です。 まずはイベントなどソフト面から着手し、将来的にはハード整備へと進めていきます。冷房の故障も毎年発生しており、修理費も高額なので、新しい施設の整備を急ぎたいと考えています。	—	生涯学習課
教育・子育て	11	児童館について	中央南	最近オープンしたコスモスパレットですが、子どもたちも利用させていただいており、楽しく遊ばせてもらっています。ありがとうございます。 以前の場所から3階に移りましたが、新しくなった建物はとてもきれいで良い印象を持っています。ただ、小学生から高校生までが遊べる部屋がひとつしかないという点で、やや手狭に感じられるという声を聞きました。せっかく新しくなったのだから、もう少し広くなるのかと思っていた部分もあります。 また、乳幼児向けの遊びスペースは別にありますが、赤ちゃんが遊んでいると幼児がうまく遊べなくなるといった場面もあり、少し使いづらさを感じました。そうした点について、もう少し工夫していただけたらありがたいなと思っています。	ご意見ありがとうございます。コスモスパレット、最近できたばかりなので、実際に使ってみて分かる課題もいろいろ出てきていると思います。ぜひ、市の職員にご意見を伝えていただけたらありがたいです。それを現場にフィードバックして、改善につなげていきます。使い勝手に関する声は、すでにいくつかいただいているところ です。 それともう一つ、今考えているのが、駅の近くに全天候型で子どもたちが思いっきり遊べるような場所を整備しようという計画です。近いうちに動きが見えてくると 생각합니다。特に小学生の子たちが体を動かせる室内の広い空間が必要だと感じていて、猛暑や雨の日でも遊べる場所を作っていきたいと考えています。	—	子育て支援課
教育・子育て	12	コスモスパレットについて	中央南	コスモスパレットの施設に300席のホールができると聞いて、とても期待していました。ただ、実際には2カ月前からでないと予約できず、懇話会に入っていないとなかなか取りにくい状況です。イベントを開催しようとする、準備期間も含めて3カ月以上は必要で、たとえば文化ホールでは1年前から予約が可能です。それに比べると、コスモスパレットのホールは普通の公民館と同じような扱いで、登録していないと使えないというのは正直不便に感じます。検討いただけるとありがたいです。 私は合唱団をやっ ています、3月に定期演奏会をしたので、6月にもう一度やろうと思ってホールを予約しました。無料で使わせていただけるのはとてもありがたいです。ただ、図々しくも5月からの練習も全てそこに 入れさせていただいたのですが、要するにホールは空いているんです。だけど「使えない」と言われてしまう。実際、もっと使いたい人はいるのに、制度が壁になっている印象です。 さらに、以前は物を置けたのに今は置けなくなっていて、太鼓などを使う団体も困っています。懇話会に入っている団体には倉庫があると聞きますが、私たちは社会教育の認定団体なので使えません。譜面台も毎回持ち運びしないといけなくなりました。駐車場もないため、保管場所を賃してほしいとお願いしてもダメ、備品を用意して買ってほしいとお願いしてもダメ。「お宅だけじゃないでしょう」と言われるのですが、私たちだけのためではなく、共用でも良いのです。とにかく、使い勝手の点で細かな不便が重なっている印象です。 最近 は児童館の件なども話題になっていますが、施設運営のあり方についても広くご検討いただけるとありがたいです。	あの施設の運営は現在、民間の事業者をお願いしているのですが、運営主体は変わらないとしても、運営のあり方ややり方については、市としても伝えられる部分は多いと考えています。いただいたご意見をしっかりと吸い上げて、より良い場にしていけるよう努めてまいります。	—	生涯学習課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
健康・福祉	13	スポーツ施設の利用について	浦部	私はボランティアで少年サッカークラブの運営をしています。松山下公園の競技場や市の競技場を市のクラブではなくて、他の市のクラブが優先的に使えないという課題があります。その辺をぜひ改善していただけるとありがたいなというふうに思っております。 これは私のクラブに限らず、他のクラブからも同様の声が上がっており、市のサッカー協会の中でも議題として取り上げられていますので改善をご検討いただけるとありがたいです。	持ち帰って状況を確認します。	松山下公園陸上競技場については、陸上競技場としての活用を優先しており、サッカー利用の事例といたしましては、市スポーツ協会が主催する市民大会の準決勝以上という運用としております。 この他サッカーができる有料グラウンドの予約につきましては、公共施設予約システムによる市内登録団体による抽選、その後は登録団体による先着順受付としており、無料グラウンドについては、市内団体のみの開放としています。	スポーツ振興課
市役所づくり	14	人材交流・確保について	共通	人材育成という話をされていましたが、私も「人が一番大切」だと思うんですね。副市長さんに新しい方が入られたということですが、県の職員との人事交流はどうなっているのでしょうか。少し前に聞いた話では、あまり交流が行われていないと感じました。 副市長に限らず、もう少し下の階層、例えば課長クラスなどの方が市に来てくれると、若い職員たちにとっても良い刺激になると思うんです。印西市にも優秀な若手職員が多くいらっしゃると思いますが、目標となるようなモデルが少ないのではないかと感じています。 そこで、県職員の活用はもちろん、先ほどお話にあった民間との連携なども含めて、考えていただけたらと思っています。 もう一点ですが、人材については、特にニュータウンにお住まいで引退された方々の中には、企業での専門的な経験を持つ方がたくさんおられます。そういう方々にボランティア的に関わってもらえるような仕組みがあれば、その方にとっても生きがいになりますし、行政にとっても貴重な力になると思います。そういった人材の活用もぜひご検討いただければと思っています。	県との人事交流は本当に大事だと考えています。今年度からは県に派遣する職員を1名から3名に増やしました。それぞれにテーマを持ってもらい、学びながら実務に生かしてもらっています。県からも毎年1名来ていただいており、大変助かっていますが、今後はさらに増やしたいという思いがあります。ただ、県側も人員に余裕がなく、なかなか難しい面もあるので、OBの方々に任期付きや会計年度任用などで関わってもらうことも考えています。 また、知事や副知事、市長同士とも日常的に連絡を取り合っており、こうしたマネジメントレベルでの連携も非常に重要だと思っています。 それから、シニア人材の活用についても、まさにその通りだと思います。最近、ニュータウン在住の方に秘書広報課に加わっていただいています。現在は対話会の議事録を作成してもらっていて、本当に助かっています。議事録は政策に活かすために各課と共有する基礎資料になるので、とても重要なんです。 ちなみにその方、面接時に初めて実技試験を実施したのですが、圧倒的な出来でした。課の懇親会でなぜ応募されたのか伺ったところ、「妻にずっと家にいないでと言われたから」と笑っておられました。寡黙ですが非常に丁寧に仕事をしてくださっています。 今、人材確保は本当に難しくなっています。印西市はまだ比較的恵まれています。理系・技術系、特に土木や電気といった分野では人手不足が深刻です。そうした経験豊富な方に、ぜひ印西市でもう一度力を貸していただけるとありがたいと考えています。	—	人事課